

令和 2 年度 大阪府文化事業（主な実績）

施策の 方向性	事業名	主な実績
A	芸術文化振興補助金	<p>【概要】 府内の芸術文化団体が行う次世代育成に資する文化活動に補助し、子どもや青少年が優れた芸術文化に親しむことによる心豊かな成長や、大阪の文化を担う人材のすそ野の拡大を図る。（最大100万円まで補助）※大阪府文化振興基金を活用</p> <p>【実績】 ○令和元年度分 応募 35 件、採択 16 件 ○令和 2 年度分 応募 36 件、採択 13 件 （追加） 応募 11 件、採択 5 件 ○令和 3 年度分 応募 46 件、採択 14 件 （新型コロナウイルス感染症の影響により、内定辞退や事業中止あり）</p> <p>○消毒液やマスク等の消耗品費、動画配信にかかる映像制作経費等の記録費について、補助対象経費として募集要項に新たに明記するなど、コロナ禍を踏まえた柔軟な対応に努めた。</p> <p>○募集パンフレットについて 6,000 部から 4,000 部に変更したものの、応募件数は前年よりも増加した。今後、パンフレットについては、配架の際に、より注目されるようサイズ変更等を検討し、より効果的な広報活動に取り組み、認知度向上を図る。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の対策として、コロナ対策に必要な経費の補助対象への追加や、中止事業分の予算充当による追加募集など、柔軟な対応をしたことは評価できる。 ・また、事業視察の対応を整理し、視察を継続的に行える環境整備をしたことは評価したい。 ・一方で、視察時に事業者へのヒアリングが行えなくなったことは残念だった。今後、コロナの状況を踏まえつつ、感想やアドバイスも直接伝えることが出来るよう、ヒアリングを再開すべき。 ・事業者同士の交流の機会も設けるべき。多様なジャンルの団体が採択されており、各団体が互いの活動に刺激を受けることは、事業内容の進化発展に繋がるばかりか、「採択事業ラインナップ」として意識が高まれば、補助金や文化振興基金の周知にもつながる。 ・補助金の目的は「優れた芸術文化の鑑賞」としているが、この「優れた」が、「芸術文化」か「鑑賞」か、双方に係っているのかが、申請者に混乱を与えていると考えられる。双方優れており工夫があるものが採択上位を占めるが、「優れた鑑賞」の場づくりという受け止め方もありうる。より活用しやすくするため、補助金の方向性を精査すべき時期にある。
A	輝け！子どもパフォーマー事業補助金	<p>【概要】 府内の子どもが参加し、文化活動を発表・体験する機会を提供する事業に対して補助を行い、子どもたちの感性、創造性、表現力の育成等を図る。※大阪府文化振興基金を活用</p> <p>【実績】 ○令和元年度分 応募 30 件、採択 18 件 ○令和 2 年度分 応募 24 件、採択 17 件 （追加） 応募 8 件、採択 4 件 ○令和 3 年度分 応募 29 件、採択 17 件 （新型コロナウイルス感染症の影響により、内定辞退や事業中止あり）</p> <p>○消毒液やマスク等の消耗品費、動画配信にかかる映像制作経費等の記録費について、補助対象経費として募集要項に新たに明記するなど、コロナ禍を踏まえた柔軟な対応に努めた。</p> <p>○募集パンフレットについて 6,000 部から 4,000 部に変更したものの、応募件数は前年よりも増加した。今後、パンフレットについては、配架の際に、より注目されるようサイズ変更等を検討し、より効果的な広報活動に取り組み、認知度向上を図る。</p>

		<p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の対策として、コロナ対策に必要な経費の補助対象への追加や、中止事業分の予算充当による追加募集など、柔軟な対応をしたことは評価できる。また、事業視察の対応を整理し、視察を継続的に行える環境整備をしたことは評価したい。 ・一方で、視察時に事業者へのヒアリングが行えなくなったことは残念だった。今後、コロナの状況を踏まえつつ、感想やアドバイスも直接伝えることが出来るよう、ヒアリングを再開すべき。 ・子どもの主体性が引き出されるような芸術活動についての講演会等を、事業者や応募予定者に行い「子どもが文化活動を発表」することの有意義性を、より広く理解されるような取り組みを行うことから始めるべきだろう。 ・「子どもが文化活動を発表」としているが、子どもが、大阪においてどのような状況にあるのか、分析した上での、公募となっているだろうか。複数の申請がある自治体と、全くない自治体がある。 ・30万円が上限であるため、総額は100万円以下の事業が想定されるべきだが、申請金額は、それ以上の総額が多いのは何故だろうか。子どもの文化活動の発表を支援することは、子どもにとっても、また地域にとっても重要なこと。今一度、支援した子どもの文化活動が、どのように地域に影響を与え循環するかを丁寧にイメージし、方向性を精査した上で、必要に応じて大胆に発想を転換して欲しい。
<p>A</p>	<p>府庁本館活用事業</p>	<p>【概要】</p> <p>歴史的・文化的価値の高い府本庁舎を芸術文化活動の発表の場として提供し、府民の活動の場を広げることにより、民間の文化芸術団体が実施する自主的な事業を促進する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響により、「正庁の間」が貸出禁止となった。 ○「正庁の間」以外の府有施設については、ニーズ把握のためのアンケートを実施。アンケートの回答を参考に、オンライン配信での事業実施も視野に入れながら、具体的な実施方法等について検討していく。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府庁本館を芸術に活用することは、芸術家の発表機会や府民の鑑賞機会の提供にとどまらず、都市格向上に関わることであり、意義がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、開催実績がなかったとのことは残念だが、過去の利用者にアンケート調査を実施し、状況把握をしたことは評価したい。 ・小規模なコンサート等が短時間でも実施されれば、庁内にいる人々が癒されるともいえるので、鑑賞者数やオンライン配信等に関わらず、庁内での芸術活動が行われるとよいだろう。
<p>A</p>	<p>音楽体験事業</p>	<p>【概要】</p> <p>日本センチュリー交響楽団が中心となって、子どもが楽器に触れるとともに、オーケストラの中で演奏を聴き、指揮をするなどオーケストラのあらゆる面を体験できるコンサート等を実施する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タッチ・ジ・オーケストラ 8回 ○支援学校コンサート 1回 ○支援学校アンサンブル 1回 ○夏休みファミリーコンサート 2回 ○新型コロナウイルス感染症の拡大により、実績は昨年度を下回ったが、タッチ・ジ・オーケストラなどについて、感染対策に配慮・工夫して事業を実施した。 ○コロナ禍でも、府民が音楽に親しめる環境を提供できるよう、引き続き、楽団の活動を支援していく。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の育成や裾野の拡大という点で、府の文化事業の基盤を成す、重要な事業といえる。 ・コロナの影響を受け、プログラムを変更して感染防止に努めたほか、回数を減らすなどの変更があった。タッチ・ジ・オーケストラについては、従来の「楽器体験コーナー」に代わり、演奏に合わせて、手拍子を打つといった形での参加型プログラムが実施された。

		<ul style="list-style-type: none"> ・このような工夫により、コロナ禍でも事業実施が実現し、生徒たちが生演奏に触れ、同じ時間と空間を共有できる貴重な機会になったと推察される。 ・今年度は、オーケストラをはじめ、非営利の実演団体にとって大変厳しい年になった。その中で（収入には直接つながらない）アウトリーチ活動を継続することは運営面でも負担になる一方で、活動の意義を社会に訴えやすい側面もあるだろう。 ・実際に、同楽団がクラウドファンディング制度を活用して 500 万円の資金を集めたことは称賛に値する。今後も支援者層の支持を固め、「サポートして良かった」と思えるような活動や情報の発信を期待したい。 ・また、芸術文化の享受層（特に子ども）における格差を是正するためにも、引き続き、アウトリーチ活動への支援を、府にもお願いしたい。
A	メセナ自動販売機等の設置等	<p>【概要】</p> <p>広く府民の方から寄附を募り、みんなで文化を支える仕組みづくりの一つとして、自動販売機の売上げの一定割合を文化振興基金に寄附いただく「メセナ自動販売機」の設置を促進する。また、大阪府文化振興基金への寄附機能の付いた社会貢献型クレジットカード「OSAKAメセナカード」を発行する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自販機設置台数：メセナ自動販売機 33 台、次世代育成型メセナ自動販売機 8 台 ○メセナカード有効口座数：162 ○令和 2 年度からの設置事業者を募集した結果、従前より寄附率が上昇し、寄附額も増額となった。 ○市内での新たな設置箇所を 1 か所確保し、事業者の公募を行った。（R3.4.1 から設置予定） <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間の力を活用した寄附文化の醸成に関わるユニークな取り組みであり、継続実施していることを評価したい。 ・設置台数の増加に向けて取り組み、寄附額が増額になったことを評価する。また、この仕組みを継続し、今後、更なる設置台数増に繋がることを期待する。 ・メセナカードの発行数が伸び悩んでおり、パンフレット等を活用し、周知を頑張って欲しい。
A	オーケストラハウスの管理	<p>【概要】</p> <p>日本センチュリー交響楽団に貸付をしているオーケストラハウス（服部緑地内）の管理等を行う。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設について、適宜補修するなど、適切な施設管理を行った。 ○補修工事（楽器庫加湿器修繕、排煙窓用空気管漏気補修、消防設備不良修繕 等） ○定期点検（法定定期点検、消防用設備機器点検 等） <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期点検等が予定通り行われているとともに、楽団側の要請による補修工事が、順次、進められていると聞いている。 ・老朽化が進み、補修が必要な箇所が続出しているようだが、使用し続けられるよう、引き続き、対応をお願いしたい。 ・楽団の事務所が移転し、常駐スタッフがなくなったものの、練習については事前予約、日割り計算で使用可能となっており、特に、使用に支障は生じていないように伺えた。 ・事務局職員と楽団員が別の場所を拠点とすることになり、組織内部の意思疎通への影響も気になったが、コロナの影響もあり、メール等でのやり取りが増えたものと察せられる。 ・楽団にとって、練習拠点が保障されていることは、大きなアドバンテージであるため、今後もこのメリットを生かし、楽団員・事務局ともに充実した活動を続けられることを期待したい。

A	大阪府アーティスト情報発信事業（バンク）	<p>【概要】 アーティストからの登録申請に基づき、アーティストの活動実績やPR、公演情報等をHPに掲載。府内で活動するアーティストの情報を広く府民に紹介することで、地域や学校における府民の自主的な文化活動をサポートする。</p> <p>【実績】 ○新規登録件数：個人6件、団体3件 ○全登録件数：個人71件、団体97件 ○リンク等のメンテナンスの結果、削除希望が個人2件、団体4件あり、今後も定期的なメンテナンスを行い、府民が活用しやすいように情報提供する。 ○アンケートを実施し、登録者の意見を集計・分析を行い、本事業のあり方について検討する。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・掲載情報の確認を行い、リンク等のメンテナンスを行ったことは評価したい。 ・登録者に活用実績等を聞くアンケートをぜひ行うべきである。実態の把握は、今後の方針を検討する上での基礎情報となる。 ・府内において、類似の事業が複数ある。それらについて内容を確認し、可能ならば、連携等を行えるとよいだろう。府内の公立文化施設にも情報提供を行い、活発に活用していくような方向性もあってよい。</p>
B	上方演芸資料館（ワッハ上方）の管理運営事業	<p>【概要】 大阪固有の文化である上方演芸を後世に伝えていくため、資料の収集・整理・保存を行うとともに、資料の館内・館外展示や上方演芸の殿堂入り等を通じて、上方演芸に親しむ場等を提供する。 収蔵資料の整理や資料のデジタル化を進めるとともに、展示事業、ワークショップ事業や上方演芸の殿堂入り事業を実施する。さらに、若年層を中心とした新たな来館者層の獲得につながる取組を実施する。</p> <p>【実績】 ○収蔵資料を活用した展示を、以下のとおり3回実施 ・上方演芸の殿堂入り名人特別展「生誕100周年 追悼ミヤコ蝶々展」 ・館外展示「生誕100周年 追悼ミヤコ蝶々展」 ・企画展示 芸人さんのアート作品展「芸人さんは多才だ！」 ○体験型講習会（ワークショップ）の開催 ・令和2年7月から令和2年10月まで、毎月第1・3土曜日、日曜日に体験型講習会（ワークショップ）を開催。 ※11月以降は休止 ○アマチュア演芸の発表会 ・アマチュア講談会、アマチュア落語会の開催 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、英語落語の体験型講習会、在阪放送局とのコラボ企画等は、中止を余儀なくされた。 ○コロナ対策として、来館者の体温測定を行ったほか、手指消毒の徹底の呼びかけを実施。また、体験型講習会の際には、参加者へマスク着用の呼び掛け、演者と参加者の距離や参加同士の距離を確保するなど、感染拡大防止に取り組んだ。 ○収蔵資料のデジタル化にあたり、収蔵資料リストを資料館ホームページへ掲載、適宜情報の更新を行っている。また、資料館内に、図書資料の閲覧スペースを新規設置（2月末）。 ○次年度においては、収蔵資料の整理やデジタル化を進めつつ、コロナの収束状況を見極めながら、展示及びイベントを開催するとともに、大学落語研究会への発表の場の提供等の新たな来館者層の獲得につながる取組などを実施していく。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・コロナ禍においても、資料と文化を開く活動を工夫し、十分な対策と配慮をもって持続したことを、まずは評価したい。 ・上方演芸を地域のアイデンティティ形成を担う文化であると積極的に捉え、上方演芸の従来のコアなファン層の期待と資料を手入れしつつ、若い層へつなぐための試行錯誤を、以下の具体的な手段で展開してい</p>

		<p>る点が高く評価される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS の利用は、機知を交えた情報発信、インセンティブをつけたフォロワーの形成と連動させており、来館者数と館の認知の上昇が着実に見込まれる。 ・ワークショップ等で大学の落研などと接触する機会を設けている。大学は、大阪の文化に関心を持つ地方出身者を多く含む周知先としても、資料の活用を担う将来の研究者とつながるハブとしても、将来的な相互利益が見込まれる。 ・コロナ後の資料の閲覧再開にあたり、無料の施設を開く際の課題が具体的に意識されている。芸術系を含む諸分野の専門家との共同研究などの可能性を探っても良いだろう。
B	大阪文化芸術フェス 2020	<p>【概要】</p> <p>多彩で豊かな大阪の文化を核として都市魅力を創造し、広く国内外に発信することを目的に 2017 年から実施。大阪が誇る上方伝統芸能、上方演芸をはじめ、優れた音楽、演劇、アート等多彩で豊かな文化の魅力を広く国内外に発信し、インバウンドも含めた多くの観光客を呼び込むことにより、国際エンターテインメント都市の実現と大阪の都市格の向上をめざす。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主催・共催プログラム：日本固有の伝統芸能であり、重要無形文化財にも指定されている歌舞伎の特別公演など 5 件、公演数 39 回 ○来場者数：100,463 人 ○メディア掲載数：1,001 件 ○来場者満足度：97% ○府外からの来場者割合：37% <p>○感染対策を講じながら、歌舞伎特別公演や万博記念公園全体を使った音楽、アート、大道芸、茶会などの文化芸術プログラム、enoco での黒田征太郎さんのアート展、日本遺産に認定された寺院を舞台にしたクラシックコンサートなどを実施。</p> <p>○屋外のプログラムでは、来場者同士が鑑賞時に距離をとってもらうよう全員にオリジナルのレジャーシートを配布し、観覧時のディスタンスを確保。</p> <p>○enoco でのアート展では、観覧人数を制限する代わりにオンライン配信を行うなど、新たな取組みを実施。寺院でのコンサートでは、講堂を活用し、公演中は扉を開放。出演者もマスクを着用し、演奏を実施。</p> <p>○子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出する取組みとして、地域の校長会でアート展を紹介するなど、参加を促したほか、学校単位での展覧会への受け入れ、黒田さんとの交流事業を実施。</p> <p>また、enoco 校区の小学生の授業の一環として、黒田さんの作品へのぬり絵を体験してもらい、作品を会場内に展示。一部は、巨大懸垂幕・横断幕として加工し、enoco の外壁や近隣の府有施設に設置。さらに、最寄駅構内の通路一面に拡大した作品を掲示し、アートを通じた地域のまちづくり、文化芸術に対する意識の向上を図った。</p> <p>○アーティストの交流として、寺院でのクラシックコンサートでは、日本センチュリー交響楽団による弦楽四重奏に加え、世界で活躍するミュージカルソープ奏者を迎えたほか、アート展では、黒田さんと縁のある他ジャンルで活躍する著名な方とのトークショーやライブペインティングなどを実施した。</p> <p>○広報面では、海外からの観光客の呼び込みが難しいため、チラシは英語版のみ作成。公式ホームページは多言語化（4 か国語：英、中（簡体字、繁体字）、韓）を継続。</p> <p>○新たな取組として、一部ではあるが、宿泊施設とタイアップし入場券付きの宿泊プランを造成。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドやアーティスト等が「集う」ことが事業の大きな要素となっているため、「三密」を避ける等の「集う」ことに制限がある中、実現できるプログラムを選別し、工夫や調整を重ね、事業が停止しないよう努力したことは評価したい。 ・同時期に実施する府内の文化事業についても、参加プログラムという位置等を与え、府民と共に大阪の多様な文化芸術をアピールすることは良い仕組みであり、さらに周知し、積極的に行って欲しい。 ・その上で、これまでの実施体制等の課題と、府民に還元される事業となるためのアドバイスを以下に行う。 ・事業者選定・評価委員会委員について 4 名とも観光を専門とする男性である。ジェンダーバランスを平等とすべきであろう。また、文化芸術の専門家も過半数入れるべきで、全国レベル国際レベルの組織運営を

		<p>心掛けてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術の各ジャンルの専門知識を踏まえて実施しているとは思えないプログラムが見受けられた。特に、美術部門においては、地域アートイベントとしての工夫は見受けられたが、美術展としての専門性が感じられなかった。各ジャンルの主要なプログラムには専門家を置くべきである。 ・一部のプログラムにおいて、本拠地で実施する時と比べ、受付等の連携がよくなり、アクセシビリティにマイナス影響がありうると感じた。会場運営や舞台運営等は、プログラム内容に精通し、ノウハウを有するスタッフワークがなされるようにすべき。現場のポテンシャルを活かすスタッフワークが提案できる事業者の選択をする必要があるだろう。 ・経済効果が発表されているが、府民には効果が見えにくく実感がわかないため、本事業の成果が、府民に具体的に還元されるような仕組みを加えてはどうか。
<p>B</p>	<p>芸術文化顕彰事業</p>	<p>【概要】 大阪の文化・芸術に多大な貢献のあった方の顕彰等により、大阪の文化振興の機運醸成や都市魅力のアピールを行う。(大阪文化賞、大阪文化祭賞、山片蟠桃賞)</p> <p>【実績】</p> <p>○大阪文化賞：公益財団法人山本能楽堂 ※令和 3 年 3 月 26 日（金）に贈呈式（シティプラザ大阪）</p> <p>○大阪文化祭賞【3 件】</p> <p>第 1 部門（伝統芸能・邦舞・邦楽） ・竹本綴太夫 「初春文楽公演『傾城反魂香』【土佐将監閑居の段】」の成果</p> <p>第 2 部門（現代演劇・大衆芸能） ・工藤俊作 「プロジェクト KUTO-10」の制作活動</p> <p>第 3 部門（洋舞・洋楽） ・堺シティオペラ 「第 34 回定期公演『アイーダ』」の舞台成果</p> <p>○大阪文化祭奨励賞【5 件】</p> <p>第 1 部門（伝統芸能・邦舞・邦楽） ・豊竹希太夫 「錦秋文楽公演『本朝廿四孝』【景勝上使の段】」の成果</p> <p>第 2 部門（現代演劇・大衆芸能） ・沢村さくら 「沢村さくら二十周年記念曲師の会」の成果 ・橋本匡市 オンライン配信を活用した演劇公演の企画上演</p> <p>第 3 部門（洋舞・洋楽） ・環バレエ団 「オータム・バレエ・コンサート」の成果 ・會田瑞樹 「ヴィブラフォンソロリサイタル in OSAKA」の成果</p> <p>○大阪文化賞について、新たに芸術関係課程等を有する府内の公私立高等学校に対する周知や、文化庁が運営する文化プログラム総合ポータルサイト「Culture NIPPON」での周知を実施。</p> <p>○山片蟠桃賞について、国内の国公立大学、研究機関、図書館、国際交流団体及び領事館など関連する機関に周知を実施。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大のなかで活動を工夫して持続したことは評価できる。 ・周知と審査のシステムは改訂されてきたものと見受けられ、送付先リストのアップデートも丁寧に行われている。細かく配慮の必要な作業を、地道に瑕疵なく続けている点は評価される。 ・メールやホームページによる周知等の柔軟な対応も評価でき、今後、ポストコロナにおいて段階的にインターネットやデジタルを取り入れた業務に移行していくとよいだろう。 ・山片蟠桃賞については、地域文化研究枠の日本学 Japan studies の国際的なネットワークへのリーチも効果的だろう。 ・大阪文化賞、大阪文化祭賞ともに、視察を通して応援してきた芸術家を取り上げられていた。大阪文化祭賞のような上演芸術は、特に、膨大な数の公演に通わねば拾えない作品が選ばれており、熱意と慧眼を持

		<p>つ審査員が取りまとめを行なっている点で、評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顕彰事業には、人と業績と取り上げられた文化の顕彰にとどまらない意義があることが確認された。大阪アーツカウンシルも含め、大阪の文化に関わる諸団体と引き続きの連携し、この顕彰事業の成果がより広く府民に還元されるとよいだろう。
B	大阪文化再発見事業	<p>【概要】</p> <p>「大阪文化」の豊かさを再認識するため、市町村、大学及び研究機関等と連携し、「おおさかふみんネット」や「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット」を立ち上げ、府民向けの共催講座を実施する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おおさかふみんネット 講座数：1講座、参加者：295人 新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの講座が中止になった。引き続き、情報共有、広報で協力する。 ○阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット公開講座フェスタ 開催中止 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、構成員とも協議のうえで開催中止とした。今後はオンライン配信も含めて、多様な開催方法について検討する。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域自治体の特性を活かした市町村との連携、阪神奈という広がりでの大学連携等、府だからこそ行える取り組みである。ほとんどの事業が中止となり残念だったが、一方で、電子メールでの受付や、オンライン講座の構想など、新しい動きもあったことは前向きに受け止め、評価したい。 ・おおさかふみんネットは、広域自治体の府だからこそできる、ネットワークの形態である。年に1回以上は、情報交換の場を設けて欲しい。また、市町村の文化施設連携に関する情報も必要に応じて共有できると良い。 ・阪神奈公開講座フェスタの開催中止は残念だが、今後、オンライン配信も含め、時代に合った開催方法を検討し始めたことはとても良い。
C	江之子島文化芸術創造センター管理運営事業	<p>【概要】</p> <p>文化芸術の振興を図り、大阪の都市の魅力の向上に資するため、絵画等の収蔵作品の管理活用、交流・活動場所の提供、アートやデザインを活用した社会課題の発見・解決等、創造的な活動機会の創出を支援するための協働の拠点づくり等を実施する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○10年目を迎える来年度に向けて、蓄積されてきたノウハウやネットワークを活用し、多様で、かつ、多くの人々による創造活動や交流が展開されるよう事業計画を立てていたが、新型コロナの拡大により、休館や事業の中止・延期を余儀なくされた。 (4～5月緊急事態宣言時は休館、1月～緊急事態宣言時は開館時間の短縮等の措置を実施) ○この機をとらえ、過去のアーカイブ配信等による認知度の向上はもとより、ハード面のコロナ対策、並びにガイドラインの制定等によるウィズコロナ期への対応やオンラインへの切り替え等の試行実施、また、ポストコロナを見据えた各事業の在り方の再考等を行った。 ○重点項目の一つでもある「人材とネットワークの活用」については、来年度までの複数年で少人数での実践機会の提供をメインとした教育事業の展開等を通し、着実に進めている。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育講座は2学科3コース、計50名(組)の受講生が参加。 ・1月末までに延べ24回実施済(オンライン開催を含む)。 ○美術コレクションを活用した展覧会は4回実施。 「おしゃべり美術館」はコンセプトを損なうことなく、筆談や模写の導入やオンラインでの対話型鑑賞などを実施。また、展示される機会の少なかった作品の企画展や気鋭のアーティストとのコラボ展等、工夫を凝らした企画により注目を集めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品活用点数は、延べ893点(R3.1月末時点)(参考：R2年度は、1月末時点で766点) ○「大阪文化芸術フェス」の主催事業として実施された黒田征太郎展への各種協力により、メディア露出による認知度の向上や地域との協創が図られた。

		<p>○R2 来館者数：48,547 人（R3.1 月末時点）、R1 来館者数：110,581 人（R2.1 月末時点）</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、工夫や調整を重ね、文化芸術事業を実施したことは評価できる。また、コロナ対策として全国の美術有識者が組織した「日本芸術文化振興会・文化芸術活動の継続支援補助金・無所属系作家確認証発行連合体」に、enoco の美術の専門家 1 名が加わったことも評価したい。 ・enoco は「A 現代美術の振興」「B 交流・活動場所の提供」「C 協働・活動機会の創出」の 3 事業を柱とし、多様なプログラムが実施されているが、指定管理者は「C」に重点を置いてきたため、「A」「B」に関する活動のアピールや運営工夫に課題がある。特に、「A」に関する高い知見や経験を持つ人材がいるが、その能力が十分に活かされていない。 ・「A」における「所蔵作品活用業務」について、外部展示や貸出事業の目標はおおむね達成しているが、館内での展示期間・回数は、共に多いとはいえない。また、府民や美術愛好者に向けてのアピールが弱い。小規模でもよいので、常設展を enoco 内で行ってはどうか。 ・「B」については、コロナ禍にある本年度は難しい状況であったと思われる。その中で「貸館運営業務」について、美術系大学のスクーリングへの貸し出しがあったことは、美術の知見がある enoco に相応しく、評価したい。 ・「C」については、プログラムも充実しており、一部外部資金で行う自主事業も含めて活動アピールがなされており、指定管理者の取り組みへの強さが窺える。 ・昨年、地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞したことで、成果はゆるぎないものとなっている。一方で、成果をいかに府民に還元していくのか、現在のプログラムはこれまでの延長線上でしかないように推測される。評価を得たこの分野での活動を、「A」「B」も含み、施設全体のさらなる向上にどうつなげるのかを今後は示すべきだろう。 ・その他、全国レベルの芸術を扱う文化施設にしては全体予算が充分ではない。引き続き、専門人材の育成を行い、美術に関する知見や経験が活かされ、府民の文化芸術の環境の向上につながるよう、重要な文化施設であることを意識して欲しい。 ・enoco は、大きくはないが雰囲気のある建築であり、大阪にゆかりのある美術作品に触れることが出来る、素敵なアートセンターである。世界中のアートファンが、何度でも訪れたい施設になれる。
新規	<p>【新型コロナウイルス感染症関連】</p> <p>大阪府文化芸術活動（無観客ライブ配信）支援事業</p>	<p>【概要】</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、営業を休止している府内の劇場、演芸場やライブハウス等の施設が文化発信拠点としての社会的な役割を継続して果たすことができるよう、無観客ライブ等配信事業の立ち上げ支援を行う。（1 施設あたり上限 70 万円）</p> <p>施設に対する支援はもとより、音楽アーティスト、漫才・落語・浪曲など大阪ならではの演芸家が出演する場を創出するとともに、府民に文化芸術を楽しんでいただく機会を拡大する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交付決定件数：199 施設 ○補助決定事業数（配信本数）：543 件 ○プロモーションライブ再生回数：延べ約 63,000 回 ○音楽、演劇、上方演芸、伝統芸能など様々なジャンルの動画が制作され、音楽アーティストや落語家・芸人・浪曲師など、約 2,000 人の演芸家等に出演の場を創出した。 ○制作された動画は、文化課のホームページで配信し、多くの府民等に文化芸術に触れていただく機会を提供した。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大において、活動制限せざるをえなかった文化芸術活動を支援し、かつ、近年必要とされている文化のデジタルコンテンツ制作のビジネスモデルづくりを、4 月末に立ち上げたことは、早急で適切な対応であり評価したい。また、文化課だけでなく、スマートシティ戦略部と連携し、オンライン配信に必要な情報をわかりやすく公開したことは評価したい。 ・文化のデジタルコンテンツは世界的に注目されており、文化庁の文化芸術収益強化事業等により推進されている。この事業が、世界規模のデジタルコンテンツの潮流の一つのインキュベーターであり、一種のス

		<p>タートアップ支援ともなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、この成果や実施情報等を基礎情報に活用しつつ、府庁内の産業支援等と連携し、事業者のステップアップにつなげ、業界の経済効果につながるようなビジョンを持つべきだろう。 ・ エンターテインメント事業支援を押し出したため、美術分野の支援には至らなかった。美術分野にもデジタルコンテンツで伸びる事業もある。今後があるならば対象ジャンルを広げるべきだろう。 ・ ジャンルによって公演回数を重ねやすいものとそうでないものがあり、府内の活動拠点の数量が異なるものもあるため、数字だけでみるとジャンルに偏りがあるとなるので、注意が必要。
<p>新規</p>	<p>【新型コロナウイルス感染症関連】</p> <p>大阪文化芸術創出事業</p>	<p>【概要】</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、今なお甚大な影響を受けている大阪の文化芸術活動に対し、文化芸術活動の創出や鑑賞機会の提供など文化芸術活動の回復に取り組み、また、文化芸術を通して、大阪の観光集客にもつなげていく。府内のホールや劇場などにおいて、大阪にゆかりのある劇団・楽団や文化芸術家等による公演を実施するとともに、万博記念公園お祭り広場に特設ステージを設置し、屋外での公演の場を提供。</p> <p>【実績】</p> <p>○特設ステージ：8月1日から10月31日までの3か月間、万博記念公園お祭り広場に特設ステージ（ドライブインシアター）を設置し、期間中、映画や音楽、演芸など29公演を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公演内容：映画14本、音楽3回、演芸10回、その他2回 ・ 参加台数： 3,510台、参加者数約9,400名 <p>○プログラム：大阪を中心に活動する4大オーケストラによるコンサートや、12月の1か月間にわたり、上方落語家総勢250人が出演する「大阪落語祭」など8件、公演数114回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者数 約12,000人（想定） ・ 来場者満足度 集計中（3月21日に全てが終了） <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動機会が激減し、経済的に大きな打撃を受けた大阪の文化芸術事業に対して、創造や鑑賞機会の創出を行った。早急な体制づくりとコロナ対策等、その実施に工夫や調整が必要であったと考えられるが、事業実施を実現したことは評価したい。 ・ 「Go To キャンペーン」との連動は、観光の側面から検証されるべきであり、文化芸術分野との連携をどのように観光から捉えられるのかは報告を待ちたい。ここでは文化芸術の側面から以下の通りコメントしたい。 <p><プログラムの評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラシック音楽事業において若手指揮者を起用、演劇事業においても若手劇作家を起用し、大阪での芸術活動に夢が持てる工夫があり評価できる。 ・ 連続して行う落語事業のインパクトが大きく、大阪の寄席文化を発信しており評価できる。 ・ 美術分野はコロナ禍であっても空間的余裕をもって鑑賞できるものであり、複数の美術展を回遊するようなプログラムも可能であるが、本格的な美術分野の取り組みや連携はなく、残念であった。 <p><プログラム運営の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムの実施にあたっては、出演団体等のスケジュールに無理のないよう、現場の声を活かせるコーディネーター等を置くべきである。また、表現の場を支えるスタッフの仕事の創出になるように十分に留意してほしい。